

# GX リーグ基本構想

2022年2月1日

経済産業省 産業技術環境局 環境経済室

## 1. GX リーグ基本構想とは

### (1) 背景

我が国は2020年10月に「2050年カーボンニュートラル」を目指すことを宣言するとともに、2021年4月には、2030年度の新たな温室効果ガス排出削減目標として、2013年度から46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けるとの新たな方針を示している。

我が国がカーボンニュートラルを実現し、さらに世界全体のカーボンニュートラル実現にも貢献しながら、そのための対応を成長の機会として捉え、産業競争力を高めていくためには、カーボンニュートラルにいち早く移行するための挑戦を行い、国際ビジネスで勝てるような「企業群」が、自ら以外のステークホルダーも含めた経済社会システム全体の変革（GX：グリーントランスフォーメーション）を牽引していくことが重要である。

そのため、GXに積極的に取り組む「企業群」が、官・学・金でGXに向けた挑戦を行うプレイヤーと共に、一体として経済社会システム全体の変革のための議論と新たな市場の創造のための実践を行う場として「GXリーグ」を設立する。

### (2) 基本構想策定の目的

この「GXリーグ基本構想」は、本構想に基づき、「GXリーグ」の実装に向けた詳細設計の議論と取組の実証を2022年度に進めていくために、「GXリーグ」がどのような世界観を目指し、どのような企業群と共に、どのような取組を、どのようなスケジュールで進めていくべきか、といった点についての基本的な指針を示したものである。

本構想の公表以降、速やかに、「GXリーグ設立準備事務局」を立ち上げ、本構想の示す方向性に賛同する「基本構想賛同企業」の募集を開始するとともに、「GXリーグ」の実装に向けた詳細設計の議論と取組の実証を2022年度に開始するための準備を進める。

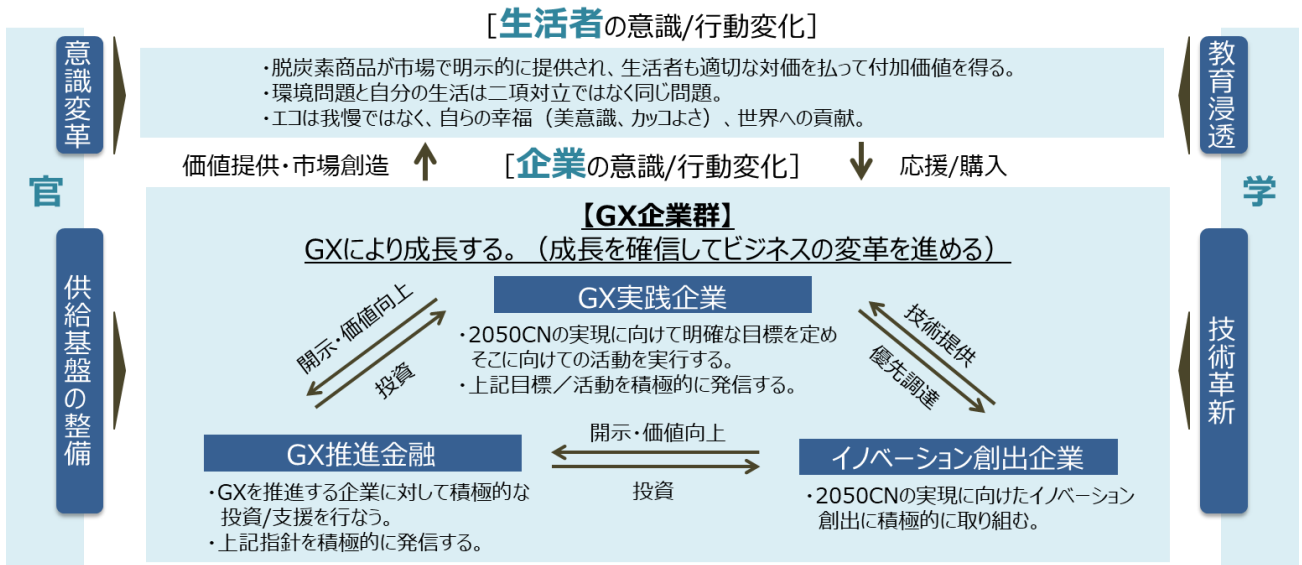
## 2. GX リーグの取組を通じて目指す世界

### (1) GX リーグの目指す循環構造

GXリーグの目指す「経済社会システム全体の変革」とは、企業の意識・行動変容がそれのみで生じるのではなく、それによって生まれた価値が提供される新たな市場の創造を通じて、生活者の意識・行動変容を引き起こし、それがまた企業の意識・行動変容につながる“循環構造”により、企業の成長、生活者の幸福そして地球環境への貢献が同時に実現されることを指す。

これを実現するために、①企業自らの排出削減や、②自らに関連するバリューチェーンへの排出削減への行動に加えて、③生活者が自ら能動的な選択できるようなGX市場の拡大が重要である。

GXリーグにおいては、上記①～③に賛同する企業を募り、下記図のような循環構造を導くための様々な試行的な取り組みを行う。具体的には、①生活者にとってのカーボンニュートラル時代の未来像のあり方の議論、②未来像を踏まえた、新たなGX市場形成のあり方（ルールメイキング等）の議論、③社会での効率的な排出削減を行うための自主的な排出量取引の試行、といった取組を併せて実施する。



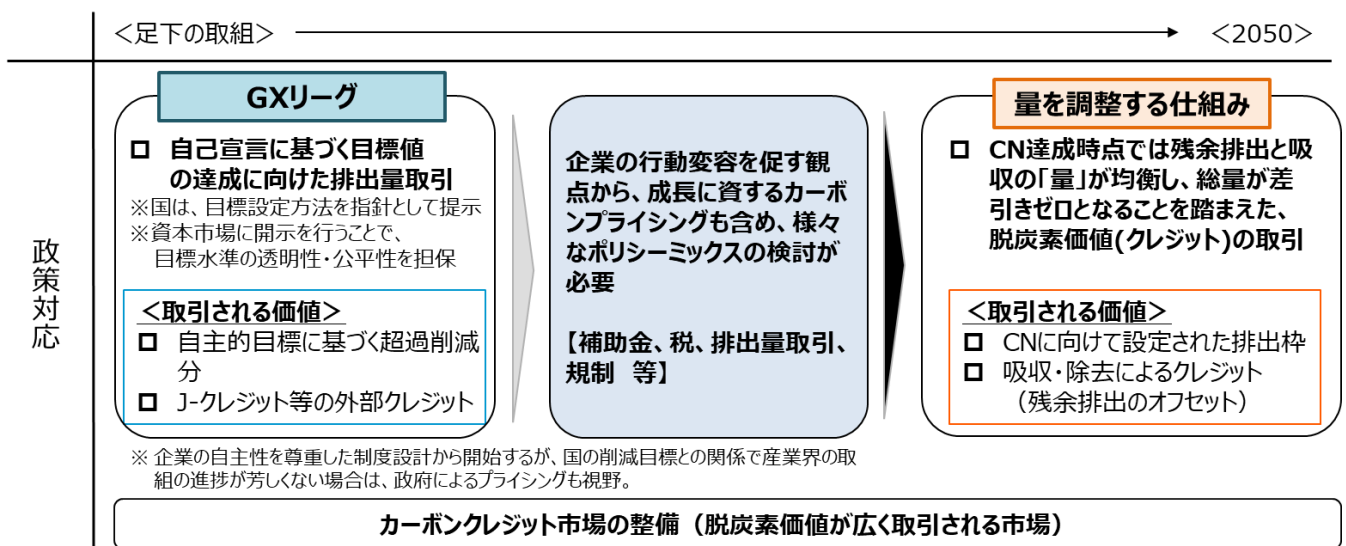
## （２）将来の量を調整する仕組みに向けての準備としてのGXリーグの位置づけ

カーボンニュートラルに向けて取組を進めていく過程においても、個別の産業において炭素中立へ移行するための代替手段が開発された段階で、そのような手段についての先行導入企業とそうでない企業との取組強度の不公平を是正するために、排出量を調整する仕組みが必要となる。これと併せて、各国の気候変動対策の強度により、各国においてカーボンニュートラルを達成するタイミングが異なる場合には、企業間と同様に国家間での調整も必要となる。

加えて、2050年カーボンニュートラルという目標が達成された状況とは、異なる主体による人為的な排出量と人為的な吸収・除去量が国内・世界において均衡している状況を指しており、この時点においても、異なる主体によるクレジットを通じた量の取引が成立していることが前提となっている。

このような、将来的に必要な排出量を調整する仕組みを踏まえ、「GXリーグ」においても、自主的に掲げた目標値を達成するための自主的な排出量取引の仕組みを措置し、これを将来の仕組みに向けた準備のための取組として位置づける。

なお、国の削減目標との関係で、このような自主的な枠組みによる産業界の取組の進捗が芳しくない場合は、政府によるプライシングへの移行も視野とする。



### 3. GX リーグ参画企業の考え方

#### (1) GX リーグに参画する企業に求められる取組

世界全体でのカーボンニュートラルの実現に向けては、高い排出量削減目標を掲げながら、カーボンニュートラルにいち早く移行するための挑戦を行う企業が、その他の主体と協働しながら、変革に向けた取組を進めていく必要がある。具体的には、自らの排出量削減に向けた取組だけでなく、自らのサプライチェーンや、生活者、教育機関、NGO 等の市民社会など幅広い主体と協働し、炭素中立型の市場設計を先導する役割を、GX リーグに参画する企業に対して求めていく。現時点でのより詳細な要件案は下記の通り。

#### 【GX リーグ参画企業に求める取組】

GX リーグ参画企業に対しては、下記の取組を実施することを要件とする。なお、それぞれにおいて、①②の取組については必須項目とし、③の取組については任意項目とする。また、下記の取組の実施について、第三者による評価等を得た場合は、それを明示することも推奨する。

#### 1. 自らの排出削減の取組

(自ら、1.5 度努力目標実現に向けた目標設定と挑戦を行い、その取組を公表する。)

① 2050CN に賛同し、これと整合的と考える 2030 年の排出量削減目標を掲げ、その目標達成に向けたトランジション戦略を描く。

※目標設定範囲は直接及び間接排出を対象。2030 年までの中間地点での目標設定も行う。

② 目標に対する進捗度合いを毎年公表し、実現に向けた努力を行う。

※自らが設定した削減目標に達しない場合は、直接排出（国内分）に関して、J クレジット等のカーボン・クレジットや企業間での自主的な超過削減分の取引を実施したかも公表する。

③ 我が国が NDC で表明した貢献目標（2030 年 46%削減）より野心的な排出量削減目標に引き上げる。

※自主的目標に基づく超過削減分の創出については、低い目標設定や事業縮小による創出を防ぐ観点から、直接排出について上記の野心的な基準を設けることも検討。

#### 2. サプライチェーンでの炭素中立に向けた取組

(自らだけでなく、SC 上の幅広い主体に働きかけを能動的に行い、SC の CN を目指す。)

① サプライチェーン上流の事業者に対して、2050CN に向けた排出量削減の取組支援を行う。

② サプライチェーン下流の需要家・生活者に対しても、自らの製品・サービスへの GPP 表示等の取組を通じて、能動的な付加価値の提供・意識醸成を行う。

③ サプライチェーン排出についても、国としての 2050CN と整合的と考える 2030 年の削減目標を掲げ、その目標達成に向けたトランジション戦略を描く。

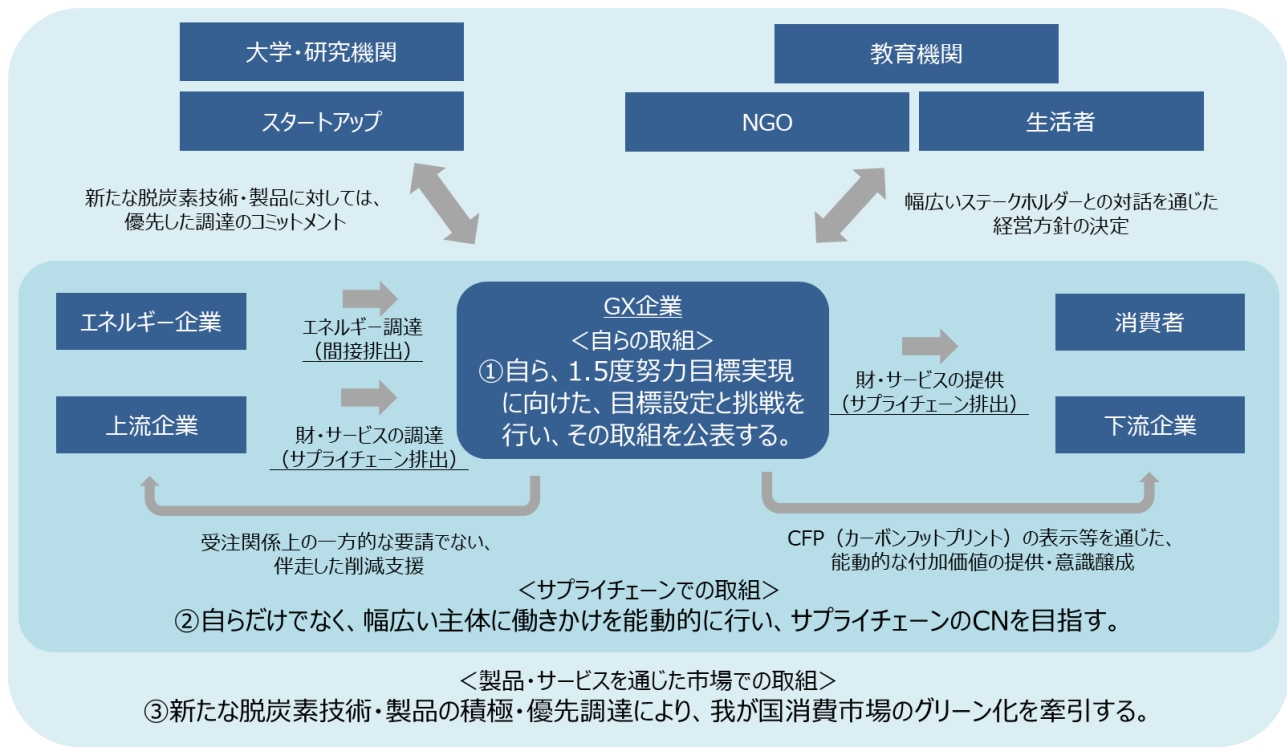
#### 3. 製品・サービスを通じた市場での取組

(グリーン製品の積極・優先購入等により、市場のグリーン化を牽引する。)

① 生活者、教育機関、NGO 等の市民社会と気候変動の取組みに対する対話を行い、ここでの気づきを、自らの経営に生かす。

② 自ら革新的なイノベーション創出に取り組み、またイノベーションに取り組むプレイヤーと協働して、新たな製品・サービスを通じた削減貢献を行う。また、クレジット等によるカーボン・オフセット製品の市場投入により、グリーン市場の拡大を図る。

③ 自らのグリーン製品の調達・購入により、需要を創出し、消費市場のグリーン化を図る。



なお、前述したように「基本構想賛同企業」は、上記1～3で掲げた基本的な方向性について賛同した企業であり、2023年度以降の本格スタートに向けて、「参画」要件を確定した上で、改めて、企業の「参画」の意思確認を行うことを想定している。

## (2) GX リーグ設立準備事務局における議論

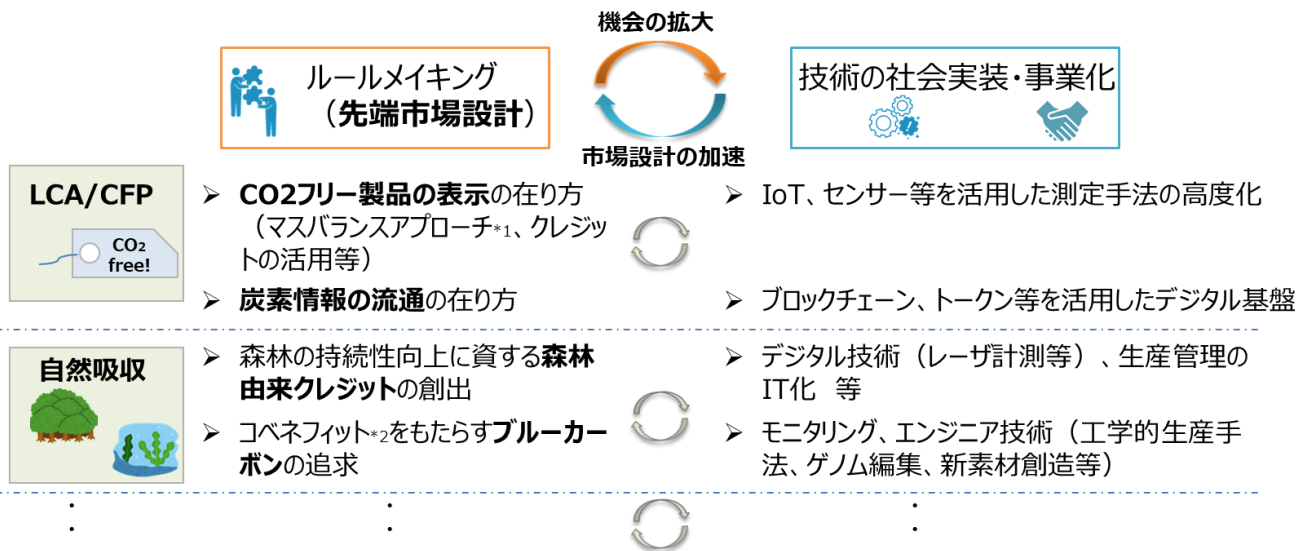
これらの要件についての詳細は、本構想を踏まえて設置する「GX リーグ設立準備事務局」において、基本構想賛同企業の意見を取りまとめながら議論を進めていくが、その際は、基本構想賛同企業による先進的な取組の内容や、前記の目指すべき世界である循環構造を形作るといった観点も踏まえて検討を進める。

## 4. GX リーグの取組・プロジェクト

### (1) GX リーグにおいて実施するプロジェクト

GX リーグにおいては、下記の三つのプロジェクトについて取組を進める。

- ① 2050CN の持続可能な未来像を議論・創造する場
  - 参画企業に加え、官学民の幅広いステークホルダーが、ワーキンググループを構成して、生活者に対して、2050CN の持続可能な未来像とそこに向けた経済社会システムの移行像を示す。(例：生活者視点の持続可能な経済社会システムのあり方、2050CN における各産業・企業の役割)
- ② CN 時代の市場創造やルールメイキングを議論する場
  - 上記1で示すような未来像を踏まえ、その未来像の実現に向けたルールメイキングの議論(先端市場設計)を進めることにより、進展する技術の社会実装・事業化に向けた機会を拡大させ、具体的な市場の創出と生活者への価値の提供を更に加速させる。



※1 原料から製品への加工・流通工程において、ある特性を持った原料 (例: バイオマス由来原料) がそうでない原料 (例: 石油由来原料) と混合される場合に、その特性を持った原料の投入量に応じて、製品の一部に対してその特性の割り当てを行う手法。(出典: バイオプラスチック導入ロードマップ (環境省、経済産業省、農林水産省、文部科学省))

※2 地球温暖化の防止、生物多様性、豊かな海等のさまざまな恩恵の達成 (参考: 海の森ブルーカーボン (国土交通省港湾局))

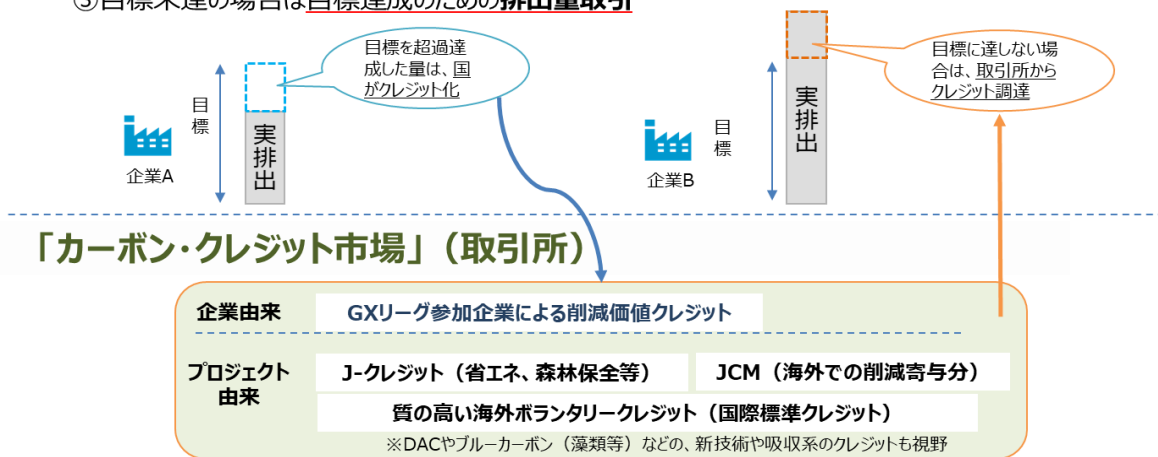
### ③ 自ら掲げた目標に向けて自主的な排出量取引を行う場

- 2030年 (またはそれに類する年) における高い排出量削減目標を自主的に掲げ、その達成に向けて、毎年の取組状況の報告と、中間地点 (※別途設定) 達成状況の評価を行い、目標に達しない場合は、直接排出 (国内分) に関して、カーボン・クレジット市場を通じた自主的なクレジットの取引を行う。

#### 「GXリーグ」(企業が自主的に参加)

◆参加企業は、目標・計画の策定と、市場を通じた排出量取引を行う。

- ①2050CNと整合的な2030年目標と計画を策定し、資本市場へ開示 (プレッジ&レビュー)
- ②実践 (毎年、進捗状況を取りまとめ公表)
- ③目標未達の場合は目標達成のための排出量取引



- ◆国際的なクレジット取引の標準化の動きとも連動し、国際的なクレジット市場を整備。
- ◆取引所は、取引価格を公示 (炭素価格としてのシグナルの発信)。
- ◆GXリーグ非加盟企業は、プロジェクト由来クレジットについて、売買が可能。

※ カーボン・クレジット市場で取り扱うクレジットについては、今後の市場設計に係る議論の中で確定する。

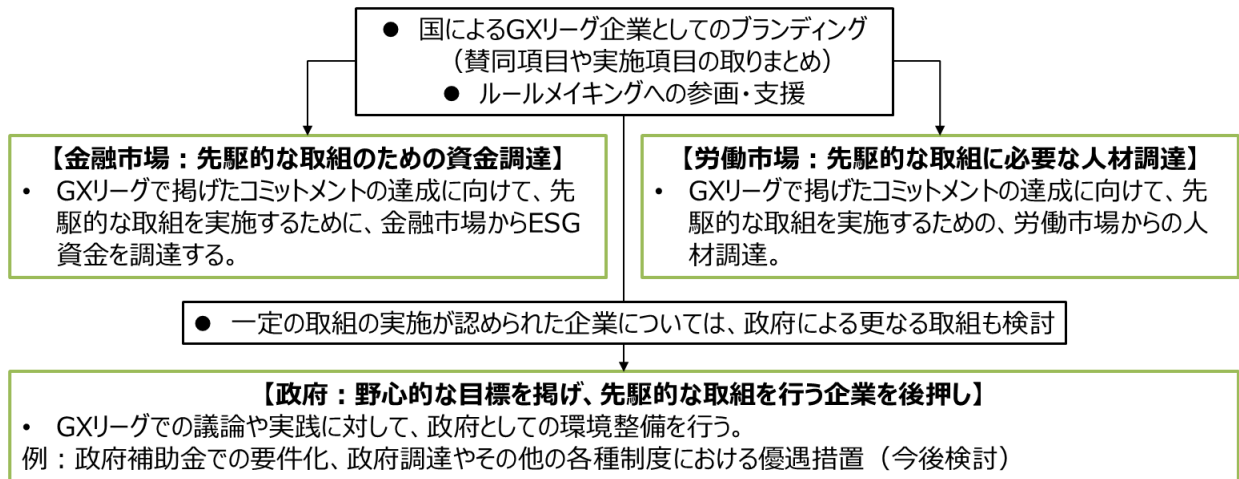
### (2) GX リーグ設立準備事務局における議論

上記のプロジェクトも含む、GX リーグにおいて実施する取組の詳細は、本構想を踏まえて設置する「GX リーグ設立準備事務局」において議論を進めていくが、併せて実証事業として、いくつかのプロジェクトについては試行的に実施することとする。その際は、基本構想賛同企業による問題意識やニーズを踏まえて具体的に実施するプロジェクトを選定する。

## 5. GX リーグ参画企業に対するインセンティブ・支援

国は、GX リーグ参画企業の賛同項目や取組実施内容を取りまとめ、これを公表することにより、これらの情報（公共財）を活用した、金融市場及び労働市場での新たな商品・サービスの創出を促す。これを通じて、参画企業に対する、変革のために必要な資金や人材の供給、オープン・イノベーションによる事業機会拡大等が促進され、経済社会全体の変革が加速することを目指す。

その上で、GX リーグに参画し一定の項目を実践した企業に対しては、政府としての更なる取組（補助金やその他の優遇措置を含む）を検討する。



## 6. GX リーグの設立準備にむけた進め方

本構想を踏まえて、速やかに GX リーグ設立準備事務局を立ち上げ、基本構想賛同企業の募集を開始する。本構想で提示した個別の内容については、初期に賛同頂いた企業とともに、議論を行いながら、必要に応じて修正を加えつつ、GX リーグの本格稼働に向けた準備を進めていく。2022 年秋以降に、カーボン・クレジット市場も含む実証事業を実施しつつ、2023 年 4 月以降の GX リーグ本格稼働を目指した議論を進める。

募集開始：2022 年 2 月 1 日（火） 募集締切：2022 年 3 月 31 日（木）

